作業途中

第5回えべつ未来市民会議　「地域産業部会」（平成24.5.23）

	短期（すぐにでも）	中期（5年程度）	長期（10年程度）
ハード	おいしく安い野菜を活かし、農産物直売所を増やす れんが、ヤツメウナギの活用 学生向きの店（飲み屋）が少ない ホタルがみられる場所への標識整備 まちコンをやる場所がない 市外の人気が高い入浴施設の活用 **商店街への消費者ニーズは？** **商業機能の維持**	冬に出荷するための貯蔵庫を整備 作物の世話を請け負うネットを利用した首都圏向けの貸し農園 泥炭を暖房に利用したハウスによる農業の通年化 農産物の貯蔵などへの冷熱エネルギーの活用 シャッター通りを逆手に取った有効活用（おばけ屋敷など） 遊歩道などによる市内観光施設のルート化 市内の観光資源を巡る観光バスツアーの実施 市営ライダーハウスの整備 大型ＳＣ（アウトレットモール等）の誘致 道の駅を整備し、江別産の食事、食材、えべチュングッズを販売 やきもの市や買い物めぐりなどのフットパスコース 河川防災ステーションの道の駅としての再整備 防災ステーション近くに水遊び、スケートのできる親水公園を整備 高齢化を見据えた徒歩でも買い物しやすい街 行政主導の道の駅の整備 老若男女が集まることのできるイベントや交流の場、広場の設置 新しい工業団地の検討 **中小企業、商店のネットワーク** **物流が必要→商業者の協業** **地域の物流ネットワーク構築**	商店街としての街並みの回復 ＪＲ防風林に宿泊・自然体験施設を整備 石狩との間で船を運航し、船着場に屋台村を整備 野幌森林公園のフットパスの整備 人を呼べる大きなイベントホールの整備 他市の人が訪れるような大型公園の整備 大型イベントを開催できるイベント会場の整備 湯川公園を道の駅として整備し、野菜や特産品などを販売 野幌森林公園の江別側からのアプローチ（大沢口）の整備 札幌競馬場の誘致 宿泊施設の整備 鉄道林南側への連続性のある桜の植樹 野幌駅から原始林まで行く道の整備 ヨットハーバーの整備 桜や紅葉する街路樹を植樹し、食事のできる場所に整備 **大型店誘致が重要**
ソフト	積極的な企業誘致が必要 農産物直売所のＰＲ 野幌森林公園の豊富な自然の活用 市役所職員が江別の街中で飲食しなくなった 札幌近郊でありながら田園風景がある環境の活用 野幌森林公園の木の生えていない場所へ市民参加による植林 野幌森林公園における野鳥の会の人などによる案内ボランティア 巨大市場の札幌をターゲットにした農作物 市が主体となった営農指導体制 生協の誘致を活かした企業誘致 江別スイーツ、パン、江別ビールのＰＲ 菊水ととんでんファームのコラボなど既存資源で高付加価値化 れんが、小麦、野菜、チーズで江別ピザを販売 広い土地を活かした集配センターの誘致 食品・農産物加工など江別の産業を活かす企業の誘致 農業と産業、大学が一体となって、江別小麦などで町おこし 市民が江別ブランドを理解して市外へ販売 スノーフェスティバルの魅力向上 歴的施設の保全活用 江別スイーツとのコラボでやきもの市に若者を呼び込む 農村地区の観光活用(フットパスなど) 北海道有形文化財に指定された土偶の活用 有名人の観光大使任命による市のＰＲ 新規就農の支援、法人化 新規就農を支援する会の発足 江別の農産物を使ったイベントの開催 大学と農業、商業、工業の連携の推進 市民の買い物優待制度 どんぐりで飼育するイベリコ豚の導入（どんぐりは植樹） 質のよい農産物のＰＲ 酪農公社の牛乳、えぞ但馬牛の地元消費 えべつ出身の有名人を呼んだイベントの開催 美味しい店の情報などの観光マップを作成し、駅などに配置 野幌森林公園の活用 道立運動公園の活用 野菜直売所、体験型農場のPR 埋蔵文化財センター、文京台小学校の天文台、四季の道の活用 積極的な企業誘致が必要 既存の資源を組み合わせた観光パッケージ化 農家民宿、農家レストランによる地産地消 えべチュンの活用 れんがを活用したイベントの開催 魅力的な街とするため箱物よりもソフト面の充実が必要 野幌小学校の木造校舎や自然の活用 江別恵庭線に農産物直売所を整備 農産物のブランド化 平日の人口確保のため魅力となる拠点を模索 工業団地の活性化	6次産業化により、ブランド力、高付加価値の商品開発 石狩川の活用（雄大な流れが眺められる喫茶、カヌー体験など） 石狩川の川下り体験や水運の歴史学習 いい意味でえこひいきできるまちづくり会社の設立 市内の食料自給率を上げる取り組み EBE-1グランプリとやきもの市の同時開催 中国などからのフィルムコミッションの誘致 EBE-1を定例化して江別産をＰＲ 学生の視点による観光プロジェクトの立ち上げ 廃校舎や民家の宿泊利用 元気な高齢者が働ける場づくり 大学卒業後の雇用の場づくり（例：介護施設） れんがを利用したデザイン性のある身近なものを商品化 河川防災ステーションの活用（親水空間、直売所など） やきもの市の開催期間の延長 江別高校跡地のイベント会場としての有効活用 セラミックアートセンターの活用（アクセスの改善含めて） EBE-1や江別ブランドを企業や他市にとられない工夫 輪作体制の構築が必要 シネコンの活用 昔チョウザメがいたことを活用 地域バランスを考えた大型小売店の誘致 ３つの河川を財産として有効活用	セラミックアートセンターの民間への売却 月に2、3回市内のどこかでやきもの市をイベントとして開催
ハートづくり	**市民目線の観光** 企業と学生のマッチング **今ある地域資源の観光資源化** 農業の後継者対策 江別が誇れる産業である農業を大切にする **工場見学ツアー** 若い人を呼び込むための産業・企業が必要	**観光資源のネットワーク化** 目玉となる新しい取り組み 子育て世代の人たちが短時間でも働ける場所が必要 若い人が安心して働ける街づくり 道の駅を整備し、働く場をつくる	